

公益財団法人西宮スポーツセンター  
中期経営計画

平成30年10月

公益財団法人西宮スポーツセンター

公益財団法人西宮スポーツセンター  
中期経営計画

目次

第1章 概要.....	3
1 はじめに.....	3
2 対象期間.....	3
3 目的と基本姿勢.....	3
第2章 取組内容と目標.....	4
1 取組内容.....	4
2 スポーツ事業部門の拡充.....	4
3 施設管理部門の充実.....	5
4 事務管理部門の充実.....	6
5 別表1 収支計画目標.....	8
6 別表2 収益に関する指標 その1.....	9
7 別表3 収益に関する指標 その2.....	10
8 別表4 費用に関する指標.....	10

---

# 第1章 概要

---

## 1 はじめに

公益財団法人西宮スポーツセンター（以下、「スポーツセンター」と略する。）は、平成29年度の市立スポーツ施設の指定管理者選定（対象期間：平成30年度から平成34年度まで）において、鳴尾体育館、今津体育館、甲武体育館の3体育館が指定管理受託施設から外れたことにより平成30年度から財政規模が縮小しました。

また、これまで駐車場管理者であるスポーツセンターに帰属していた駐車場事業収入が、平成30年度より市の歳入になることから、収益事業等会計の継続が困難になりました。

これに伴い、平成30年度決算から赤字に転じることが予想され、今後は積立金からの取崩しが避けられない見込みです。このような状況から、経営改善により平成34年度には赤字が解消することを目標として、平成30年度からの5年間を対象に中期経営計画を策定しました。

今後は、より一層西宮市のスポーツ振興に重心をおいて、市との連携を含め、地元とも密着した公益目的事業のスポーツ指導を中心とした事業に重きをおいてまいります。

また、この計画は、今後の中央運動公園の再整備計画、次回の指定管理の申請に合わせて適宜計画の見直しを行います。

## 2 対象期間

この計画の対象期間は、平成30年度から平成34年度までの5年間とします。

## 3 目的と基本姿勢

スポーツセンターでは、定款第3条に定めた目的により、スポーツ振興事業及び施設管理を行います。

【定款】第3条 目的

この法人は、市民の生涯スポーツの振興に関する事業を行うとともに、施設を広く地域住民の利用に供し、もってスポーツの振興と体育の向上に寄与することを目的とする。

この目的の実現に向け「スポーツサービスの向上」と「経営の健全化」を図ります。「スポーツサービスの向上」により「市民に期待され、親しまれ、信頼されるスポーツセンター」であり続けていきます。

「経営の健全化」は、良質なスポーツサービスを安定的かつ継続的に提供するためには不可欠です。

---

## 第2章 取組内容と目標

---

### 1 取組内容

取組内容は、スポーツ事業部門の拡充、施設管理部門及び事務管理部門の充実に分けて整理するとともに、目指すべき目標を指標として定め、その達成に向けた取組を実施します。

### 2 スポーツ事業部門の拡充

#### (1) 既存自主事業の拡充（各種教室）

市民が、幼児期から高齢期まで、いつでも・どこでも、そして手軽に運動・スポーツに親しむことができる生涯スポーツの振興を図るため、それぞれのライフステージや家庭環境に応じて、生涯にわたり継続できるよう、各世代に応じた一貫性のあるプログラムを作成し、活動の場を含め、低廉な価格で提供しています。

「幼児期」、「児童期」、「青年・壮年期・中年期」、「高齢期」のスポーツ教室を展開しています。

事業数、参加人数の増加に努めるとともに適正な受講料を設定し、別表2・3のとおり目標を設定します。

#### (2) 既存自主事業の拡充（イベント）

「幼児期」、「児童期」、「青年・壮年期・中年期」、「高齢期」のスポーツイベントを展開しています。事業数、参加人数の増加に努めるとともに適正な参加料を設定します。

単発のイベントを複数回実施することで、普段、運動・スポーツに親しむ機会の少ない方へのアプローチを進めるとともに、上述の定期的開催される教室の受講への誘導を図ります。

#### (3) 既存自主事業の拡充（障がい者スポーツ）

誰もができるスポーツを目指し、資格を有した指導員が障がい者に対する理解をしながら指導を行っています。西宮市社会福祉協議会（総合福祉センター）と連携し、幅広く参加して頂けるよう、すべての人が障がい者スポーツに関心を持ち、体験して頂ける環境の提供を強化します。

#### (4) スポーツサポート事業（派遣）の拡充

市内外の事業に指導者及び運営補助スタッフを派遣する事業を強化するとともに、適正な派遣料金を設定します。

#### (5) 受託事業の拡充

西宮市等からの受託事業において成果をあげ、継続的に事業を受託できるよう努めま

す。

とりわけ、スポーツに関する専門的な知見と経験を有するスポーツセンターの指導者を活用し、市主催等事業の運営を市職員に代替して、円滑に実施・運営していくことにより、市のスポーツ行政の推進に寄与するとともに、公益財団法人に求められる公益性を担保します。

#### **(6) 連携事業の展開（大学）**

武庫川女子大学や関西学院大学との間で、コラボレーション事業を企画し、スポーツセンターと大学関係者の双方が専門性を活かした事業に取り組みます。健康・スポーツ科や運動部に属している学生とのスポーツ教室やスポーツイベントの企画・運営、食育・栄養学を専攻している学生との食育事業など、これまでスポーツセンターが着手していなかった領域について、新たに展開します。

#### **(7) 連携事業の展開（スポーツクラブ21）**

市内40地区のスポーツクラブ21の実施する事業と積極的に連携を進め、地域スポーツの振興を図ります。

#### **(8) 連携事業の展開（スポーツ関係団体）**

スポーツセンターは、公益財団法人としての市民の生涯スポーツの振興を充実するため、市内のスポーツ関係団体である、西宮市体育協会、西宮市スポーツ推進委員協議会、アスレチック・リエゾン・西宮やリゾ鳴尾浜の実施する事業と積極的に連携を進めます。

### **3 施設管理部門の充実**

#### **(1) スポーツ会館の充実**

スポーツ会館は、プレイングルーム、フィットネスルーム及び会議室を備え、スポーツ教室を開催するとともに、各種団体が利用しています。個人利用としては、マシンジム、卓球場、ゴルフの練習場を備えています。この施設をより積極的に広報し稼働率の向上を図ります。

#### **(2) 指定管理施設の確保**

平成30年度から平成34年度まで管理する指定管理施設の運営実績を蓄積し、次回選定時に、より多様な施設の指定管理者として選定されるよう努めます。

## 4 事務管理部門の充実

### (1) 会計構成の見直し

収益事業等会計を廃止し、公益目的事業会計と法人会計に集約します。また、法人会計の管理費は公益目的事業会計の収益を充当するよう見直します。

### (2) スポーツ情報の提供

誰もがいつでも知りたい情報を気軽に入手していただける環境の整備に取り組みます。Facebook などの SNS の環境を整えて、常に新しい魅力ある情報の発信に取り組みます。スポーツセンターを通じて情報の輪が生まれ、健康づくり・仲間づくり・生きがいづくりなど市民のコミュニケーションツールとして定着し、スポーツセンターの事業に参加して頂けるような情報提供を目指します。

### (3) 職員のスキルアップ（資格取得）

全職員を対象に、年次計画に基づき外部に派遣する研修、資格取得につながる講習会に積極的に参加するとともに、自己研鑽、相互研修を行い、指導力、事務能力等の向上を引き続き、図ります。

### (4) 指導者の確保

各種業務の拡充を図るため、優れた指導者の確保と、学生等との協働事業に積極的に取り組みます。

### (5) 柔軟な勤務体制の導入

平成 31 年 4 月から、働く方々がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会を実現することを目的に、働き方改革関連法が順次施行されます。これに伴い、子育てや介護がしやすく、勤務が継続できるよう、週 32 時間勤務の制度を導入します。導入後、給与費総額に一定の抑制効果も見込まれます。

### (6) 経費の抑制

主に公益目的事業会計の経費について、契約方法・仕様書の見直し等により支出の削減を図り、消耗品費、修繕費、委託費で、本計画終了時（平成 35 年 3 月）に平成 30 年度見込み比で概ね 3 % の削減を図ります。

### (7) スポーツゴールデンイヤーズ事業活性資金等積立金の活用

トップアスリートの育成事業に充てる予定であったスポーツゴールデンイヤーズ事業活性資金は、スポーツセンター単独で取り組む事業ではないことから、理事会の承認を経たうえで取崩し、スポーツセンターの経常費用に充当するなど、再度活用します。

建設改良等積立金については、急な資金需要があった場合には活用することが可能であり、今後のスポーツ環境の変化に合わせて活用することを検討します。

**(8) 将来の整備計画への対応**

今後の中央運動公園の再整備計画の進捗にあわせて、スポーツセンターの将来を見定めて、柔軟に対応することが可能となるよう、組織のあり方を見直します。

## 5 別表1 収支計画目標

平成34年度に、単年度黒字を達成するとともに、それまでの期間は、スポーツゴールデンイヤーズ事業活性資金を取崩し、経常費用に充当します。

(単位：千円)

項目	年度	29年度 実績	30年度 見込	31年度 計画	32年度 計画	33年度 計画	34年度 計画
経常収益		479,266	365,837	359,403	364,734	368,450	371,566
目標増収額(センター事業収益)				2,527	4,100	3,600	3,000
センター事業収益		127,040	162,273	164,800	168,900	172,500	175,500
施設管理事業収益		303,281	192,697	194,403	195,634	195,750	195,866
駐車場等使用料収益		48,745	10,667	0	0	0	0
補助金等(スポーツ基金)		200	200	200	200	200	200
経常費用		457,677	373,668	369,115	369,083	369,062	368,466
目標削減額(別表4)				△1,500	△1,500	△1,500	△1,500
事業費		450,582	369,903	365,909	365,891	365,885	365,304
給与費		181,165	165,459	159,396	160,298	161,201	162,105
消耗品費		18,210	9,321	9,225	9,129	9,033	8,937
修繕費		42,891	32,460	32,126	31,792	31,458	31,124
賃借料		11,302	9,643	9,720	9,797	9,876	9,876
負担金		1,361	15,682	15,807	15,933	16,060	16,060
委託費		152,636	102,408	101,352	100,296	99,241	98,186
その他経費		43,017	34,930	38,283	38,646	39,016	39,016
管理費		7,095	3,765	3,206	3,192	3,177	3,162
給与費		4,455	1,511	997	997	997	997
賃借料		165	452	420	420	420	420
委託費		1,639	1,428	1,414	1,400	1,385	1,370
その他経費		836	374	375	375	375	375
経常損益		21,589	△7,831	△9,712	△4,349	△612	3,100
特定費用準備資金取崩		0	7,831	9,712	4,349	612	0
損益		21,589	0	0	0	0	3,100

特定費用準備資金 23,000 (スポーツゴールデンイヤーズ事業活性資金)

収支差額 15,169 5,457 1,108 496 496

建設改良等積立金取崩 (39,735)

※経常収益・経常費用共に公益目的会計と法人会計の合計値を示す。

## 6 別表2 収益に関する指標 その1

ライフステージに応じたスポーツ教室について年次的に事業拡大を図り、実施回数及び受講人数の増加を目指します。

### 《指標》 幼児期のスポーツ教室

項目	単位	29年度 [実績]	30年度 [見込]	31年度 [計画]	32年度 [計画]	33年度 [計画]	34年度 [計画]
教室数	教室	75	56	60	64	64	64
実施回数	回	2,829	2,150	2,350	2,500	2,500	2,500
受講人数	人	64,734	44,000	47,000	50,000	50,000	50,000

### 《指標》 児童期のスポーツ教室

項目	単位	29年度 [実績]	30年度 [見込]	31年度 [計画]	32年度 [計画]	33年度 [計画]	34年度 [計画]
教室数	教室	79	62	66	74	74	74
実施回数	回	2,673	1,920	2,100	2,350	2,350	2,350
受講人数	人	42,487	29,800	31,800	35,650	35,650	35,650

### 《指標》 青年・壮年・中年期のスポーツ教室

項目	単位	29年度 [実績]	30年度 [見込]	31年度 [計画]	32年度 [計画]	33年度 [計画]	34年度 [計画]
教室数	教室	105	83	85	87	87	87
実施回数	回	3,809	3,367	3,450	3,550	3,550	3,550
受講人数	人	38,502	37,181	38,000	38,800	38,800	38,800

### 《指標》 高齢期のスポーツ教室

項目	単位	29年度 [実績]	30年度 [見込]	31年度 [計画]	32年度 [計画]	33年度 [計画]	34年度 [計画]
教室数	教室	11	5	7	10	10	10
実施回数	回	324	99	138	245	245	245
受講人数	人	4,018	2,100	2,940	4,200	4,200	4,200

## 7 別表3 収益に関する指標 その2

平成32年度から、施設利用料金や教室参加料の一部見直しを行い、公益目的事業会計の増収を図ります。

(単位：千円)

		30年度 見込	31年度 計画	32年度 計画	33年度 計画	34年度 計画
施設利用収入		19,800	21,000	22,000 (個人1回100円値上げ)	22,500	23,000
スポーツ教室 事業収入	センター教室	21,409	23,000	25,000 (月1,000円値上げ)	25,500	26,000
	体育館教室	49,380	53,000	56,000 (月400円値上げ)	58,500	59,500
	テニス教室	21,007	21,500	21,500	22,000	23,000
	イベント	2,370	2,600	2,600	3,000	3,500
派遣指導収入		2,607	2,700	2,800	3,000	3,500
受託料収入		45,700	41,000	39,000	38,000	37,000
合計		162,273	164,800	168,900	172,500	175,500

## 8 別表4 費用に関する指標

経常経費について、節減に取り組めます。

(単位：千円)

《指 標》

項 目	29年度 [実績]	30年度 [見込]	31年度 [計画]	32年度 [計画]	33年度 [計画]	34年度 [計画]
合計	215,376	145,617	144,117	142,617	141,117	139,617
消耗品費	18,210	9,321	9,225	9,129	9,033	8,937
修繕費	42,891	32,460	32,126	31,792	31,458	31,124
委託費	154,275	103,836	102,766	101,696	100,626	99,556

以上